

稲作だより

～第3号 育苗・本田編～

気温が高い予報です！苗ヤケ注意

4月10日発表の東北地方の1か月予報（4月12日から5月11日）では、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、特に期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。また、降水量は並みか多く、日照時間は少ない見込みです。苗の温度管理を十分に行い、苗の伸ばしすぎに注意しましょう！

～育苗期～

1 健苗育成のための温度と水管理 《高温障害に注意!!》

○気温の低い日でも、日が当たると閉め切ったハウス内はすぐに高温になります。
施設内温度（特に苗箱付近）を確認し、朝8時前までに換気しましょう。

◇温度管理の目安

稚 苗 育 苗（育苗器で出芽する場合）	中 苗 育 苗（無加温で出芽する場合）	
	昼間	夜間
出芽期（2日間）	30～32℃	
緑 化 期 （3日間）	20～25℃	10℃以上
1.5 葉期以降	15～20℃	5℃以上

○かん水は、基本的に午前中に1回たっぷりに行いましょう。

○低温時や夕方のかん水は、床土の温度が下がるとともに過湿状態になり、根張り不良や病害発生の要因となります。

2 育苗期に発生する障害

温度管理やかん水を適切に行い、病害等の発生を防ぎましょう。

苗の地際部や籾周辺のカビ、生育異常等がみられたら、早めにご相談ください。

◇育苗時の主な病害、障害の原因と対策

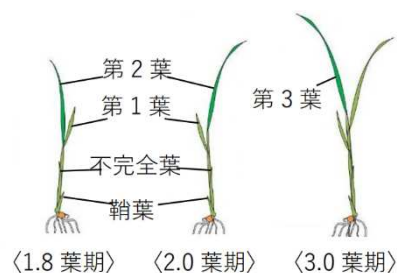
障害（原因菌）	症状	原因	耕種的対策
苗立枯病 （リゾプス）	覆土の表面や種籾のまわりに白いカビ	出芽期間中の高温、緑化開始後の低温	高温、過湿を避け、日光に当てて殺菌する
苗立枯病 （トリコデルマ）	地際部に青緑色のカビ	水分不足、土壌pH4以下、出芽時の高温	高温を避ける
苗立枯病 （フザリウム）	地際部に白または紅色のカビ	低温、乾燥・過湿の繰り返し	低温を避ける、過湿、過乾燥にしない
ムレ苗症状	2葉期以降、葉先が巻いて萎れる	過湿、低温、土壌pH6以上、厚播き	過湿にしない

3 育苗期の追肥

○育苗土に緩効性肥料（中苗一発など）を使用していない場合は、下表を目安に追肥を行います。

◇苗の種類ごとの追肥時期と施肥量の目安

苗の種類	追肥時期	施肥量
稚苗	1.8 葉期	窒素成分 1g/箱 例) 液肥 2 号(N:10%)を 100 倍希釈し、10/箱施用
中苗	2.0 葉	
	3.0 葉	



○高密度播種では、移植 3 日前に弁当肥え（窒素成分 1g/箱程度）を施用しましょう。

～本田の管理～

1 気候変動に負けない本田準備 «土づくり、作土深の確保»

○ケイカル・ようりん等土づくり肥料を積極的に施用しましょう。

施肥量の目安

ケイカル：120kg/10a 程度
ようりん：30kg/10a 程度

○作土深を十分確保することにより、登熟期の高温等への抵抗が高まります。
耕深は 15 cm を確保しましょう。

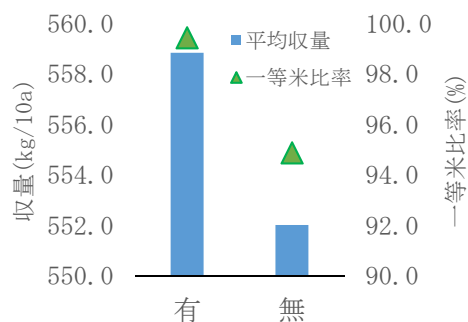


図 土づくり資材の有無による収量・品質 (R6 つや姫チェックリストより)

2 適正な基肥施用

○下記の目安を参考に、圃場の地力に合わせて適量の施肥を行いましょう。例年、葉色が濃い、屑米が多い圃場では、窒素を 1～2 割減らします。

◇一般田での基肥量の目安（窒素成分 kg/10a）

品種名	基 肥	品種名	基 肥	品種名	基 肥
はえぬき	5～6	あきたこまち	3～5	コシヒカリ	2～3
つや姫	3～4	ササニシキ	3～4	山形 95 号	4～5
雪若丸	4～5	ひとめぼれ	3～4		

○側条施肥を行う場合は、全層施肥より 2 割程度減肥します。生育中期の肥切れが心配される場合は、全層施肥との組み合わせや緩効性肥料を用いて対応しましょう。

北村山地域の稲作情報を LINE で配信しています。
QRコードを読み込んで、友だち登録してください。

